

Maruki Suma



田楽 1956年 丸木直也氏蔵

特別展

おばあちゃん画家の夢

丸木スマ展

目が見えんようになったら、手さぐりで描きます。
絵を描きはなえてから、面白うての。
こりゃ、まだまだ死なりやせん思うて。
わしゃ、今が花よ。

『丸木スマ画集 花と人と生きものたち』より



自画像 制作年不詳 個人蔵

2017年

7/1[土] - 8/13[日]

開館時間 9:00~17:00 (入場は16:30まで)

休館日 月曜日 (ただし7月17日[月・祝]は開館)、7月18日[火]

観覧料 一般 800円、高大生 400円

中学生以下無料 (一宮市内・市外を問わず)

※常設展観覧料を含む ※20名以上の団体は2割引

※一宮市内の満65歳以上で住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方、および身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を所持の方(付添人1人を含む)は無料

8月6日は70歳以上シルバー無料デー!

8月6日[日]「広島平和記念日、広島原爆忌」の日は、原爆の被害を経験したスマさんが70歳を過ぎて絵を描き始めたことにちなみ、市外の70歳以上の方で、年齢の確認できる公的機関発行の証明書を提示された方も無料で観覧いただけます。

主催 一宮市三岸節子記念美術館、朝日新聞社
協力 原爆の図丸木美術館

一宮市三岸節子記念美術館

〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南3147-1 Tel 0586-63-2892

《原爆の図》で知られる丸木位里の母(丸木俊の義母)である丸木スマ(1875~1956)が、70歳を過ぎて自由な創造力で描いた作品の数々をご紹介します。展覧会です。

丸木スマは、1875年に広島県伴村(現・広島市安佐南区)に生まれました。結婚後は飯室村(現・広島市安佐北区)で船宿業と農業に従事しながら4人の子どもを育て、働き詰めの毎日を送りました。家業が衰退すると広島市三滝町に移り、1945年、原爆に遭いました。翌年春に夫を亡くし、原爆の事を周囲の人が「天災と思ってあきらめよう」と言う中、スマは「ピカは人が落とさずに落ちてこん」と語りました。その後、「年をとってなにもすることがなくなった」とこぼしていると位里に絵を描くことを勧められ、1948年頃から絵筆をとるようになりました。1951年には丸木俊が出品していた女流画家協会展で初入選を果たしますが、その際、創立会員の三岸節子がスマの作品を高く評価したと言われています。日本美術院展にも3年連続で入選し、院友になりました。絵を描くようになってから「死にとうなくなった」と語るほどでしたが、1956年に不慮の事故で急逝。旧姓の赤松を名乗っていた俊は、スマの死後、「女絵描きの名を受け継ぐ」と決意し丸木姓を名乗るようになりました。

美術教育を受けることもなく「おばあちゃん画家」と呼ばれたスマの絵は、遠近法や透視図法などとは無縁で、身近な動物や魚、四季の花々等を題材に配色や構図に独自の工夫がなされています。晩年になって花開いた、色鮮やかで自由奔放な世界をお楽しみください。



初公開 ピカドン 制作年不詳 丸木直也氏蔵



柿の木 1949年 原爆の図丸木美術館蔵



ひまわり 制作年不詳 原爆の図丸木美術館蔵



塔 1950年 原爆の図丸木美術館蔵



めし 1950年 原爆の図丸木美術館蔵

講演会

生命讃歌 —丸木スマの宇宙

永井明生氏(奥田元宗・小由女美術館学芸課長)
7月29日[土] 14:00~(13:30開場)

スペシャルギャラリートーク

岡村幸宣氏(原爆の図丸木美術館学芸員)
7月15日[土] 14:00~ 要観覧券

はじめての絵手紙講座

スマさんのように自由な発想で
身近なものを描いてみましょう。

8月6日[日] ①10:30~12:00 対象:60歳以上の方
②13:30~15:00 対象:小学生以上

②は祖父母と孫・親子・夫婦など、ご家族でお申込み下さい。

参加費:一人600円(材料代)

講師:荒木万里氏(日本絵手紙協会公認講師)
申込み:往復はがき又はFAXに希望時間、氏名、年齢、郵便番号、住所、TEL FAX番号を記入して「絵手紙講座」係まで。7月29日[土]必着。申込み多数の場合は抽選とし、結果をお知らせします。

おしゃべり鑑賞会

対話による鑑賞ツアー

7月9日[日] 14:00~ 対象:一般 要観覧券
7月29日[土] 10:00~ 対象:親子 要観覧券

学芸員による展示説明

7月23日[日] 8月5日[土]
ともに 14:00~ 要観覧券

同時開催

常設展「三岸節子 色彩のきらめき」



一宮市三岸節子記念美術館

〒494-0007 愛知県一宮市小信中島字郷南 3147-1
Tel 0586-63-2892 Fax 0586-63-2893

名古屋駅より電車とバスで約40分

JR東海道本線(名古屋駅⑤⑥番線)にて「尾張一宮駅」下車、または名鉄名古屋本線にて「名鉄一宮駅」下車(JR新快速・名鉄特急で10~15分)。一宮駅西口の名鉄バスターミナル②番のりばから「起(おこし)」行きで約15分、「起工高・三岸美術館前」バス停下車、徒歩1分。[バスは約15分間隔で運行]

岐阜羽島駅(東海道新幹線)よりタクシーで約20分。駐車台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用下さい。

